

風土記の丘の花だより⁹⁷

今、そしてこれから見られる植物(2021年7月31日)

連日の猛暑です。先日、フラフラと倒れそうになった方がおられました。幸い近くの人に支えてもらって、大事には至りませんでした。おそらく熱中症だと思います。「わたしは大丈夫」ではありません。お互いじゅうぶん気をつけましょう。



ずっと前から「いつ咲くかな、いつ咲くかな」と心待ちにしていたウバユリがやっと開花しました。場所は柳川家の南(蔵の裏)の山裾です。人の背丈ほどもある花茎ですから、すぐに見つかります。花びらの間からのぞく雄しべがまるでおばあさんの抜けた歯のように見えることからこんな名前が付いたようですが、別にジジユリでもよかったのにね。



そろそろピークはすぎたようですが、ヤブミョウガの白い花がまだ見られます。前号で紹介したミョウガのところでも書いていますが、この草はミョウガという名前ですが、ツユクサ科の植物です。花のきれいなハナミョウガという草もありますが、それはミョウガの仲間です、ややこしいですね。



「たらのめ」で知られる、とげとげのタラノキに花が咲いています。花といっても観賞に値するような華やかなものではありません。枝の先に白っぽい綿のようなものが付いている感じです。写真は万葉植物園の向かって右上にある大きなタラノキです。刺が少なくメダラと呼ばれるものです。ある人によると「メダラはタラノキよりおいしくない」ということですが、果たして本当でしょうか？



最後は地味な(?)イネ科の雑草です。写真はスズメノヒエの花です。これに似ていて黒い虫みみたいなものがいっぱい付いているのを見かけますが、それは同じ仲間のシマスズメノヒエという外来植物です。街中などに見かけるのはほとんどシマの方です。スズメノヒエを風土記の丘ではよく見かけるということは、やっぱり自然度の高さでしょうか。 松下